

学校関係者評価報告書

学校名 愛媛県立八幡浜工業高等学校
 学校番号 35

評価実施日		令和5年2月28日(火)	
委員	氏名	所属等	備考
	木下 恵介	学校評議員	
	田中 元久	学校評議員	
	菊池 誠	学校評議員	
	前田 英隆	学校評議員	
	小山 優子	学校評議員	
	近藤 幸夫	元PTA会長	
	竹田 利夫	PTA会長	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学校経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信に関しては、ホームページの充実や、保護者への周知のための工夫等よくなされている。 ・学校から保護者への連絡配信や、保護者から学校への欠席連絡など、充実の継続とともに働き方改革の点から効率化することも検討する必要がある。 ・図書館環境の整備に関しては、「図書館通信」によりお薦めの本や内容を紹介しての新着図書のご案内等、興味を持つ工夫や貸出数を増やすための取組ができています。 ・教職員の業務改善に関しては、日常業務に加え部活動関連業務もあり本当に大変だが、有給休暇の取得率が上がっているようなので、今後も呼びかけを継続し、体調とやり甲斐のバランスをとっていただきたい。 <p>(2) 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導については、学校開放日の様子からも大変丁寧な指導が伝わってくる。 ・家庭学習時間が少ないが、生徒自身が学ぶことを楽しく感じるような何らかの動機づけや、内容の充実を図ってほしい。 <p>(3) 工業教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりにおいて、八工の活躍は市民の喜びである。ロボット分野の活躍など、地域のみならず経済界からも期待されているので、今までどおり熱い指導をお願いしたい。 ・技術革新のスピードも速いため、企業や研究機関との連携による知識・技術の習得を積極的に目指してほしい。資格取得やものづくりが楽しいと実感できるような取組に期待したい。 <p>(4) 特別活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの活動推進や外部との交流事業に関して、コロナ禍という状況でしかたないと思う。生徒の安全を第一に考えて実施してほしい。 ・部活動に関して、延べ人数で110% (196/178) の加入率はすばらしく、レスリングやWROをはじめとする生徒の活躍は地域の誇りである。 ・公民館活動「わんぱく広場」では、神山小の児童たちがロボットアメフト等で大変喜んでおり、交流を深めることができた。今後もよりよい行事運営がなされることを望んでいる。 	<p>1 今年度の最終評価を受けて</p> <p>(1) 学校経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も興味をもって読んでいただける工夫をしていきたい。 ・マチコミ等の連絡手段は無料で使える機能は少なく、欠席連絡は意思の疎通を図る上でも、現状では電話連絡が欠かせない。効率化については別途検討する。 ・図書の貸出冊数につながるように、今後も本の紹介に力を入れていきたい。また、図書の購入や企画等で活性化を図りたい。 ・有休の取得については校務分掌の兼ね合いから取りづらい教職員がいるので、休暇の取りやすい配置の検討や、取得の呼びかけを継続していきたい。 <p>(2) 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用など、多くの教員が新たな取組を授業で試みている。更なる授業改善に取り組み、魅力ある教育課程を構築し、丁寧な指導に繋げたい。 ・家庭学習時間の減少やエスタブリッシュメントテストの平均点の低下などに対し、生徒の学習への動機づけのあり方を見直し、学習の意義を一人ひとりの生徒が実感できるように、教員一丸となって指導に当たりたい。 <p>(3) 工業教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりに早い時期から興味を持てるよう1年次の専門科目等で取り組み、実習を通して興味を持たせ、更に高度なものづくりに興味を持つ生徒を育成したい。 ・工業教育として、社会のニーズに合わせた技術を習得した生徒の育成に尽力し、地域の期待に応えられるよう努力していきたい。 <p>(4) 特別活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒のボランティア活動に対する関心意欲は高いものがあるので、参加しやすい環境の整備を進める。 ・園芸部に代表されるような、活動結果が大々的に報道されない部活動にも、校外へ成果が発表できる場を確保していきたい。 ・この3年間のコロナ禍により各種交流事業が中止となってきた。そのため運営や開催のノウハウが消滅する恐れが生じている。来年度は、できる限り通常開催していきたい。

(5) 生徒指導

- 先生方はよく指導されている。ネット絡みの問題行動にも対応できるよう、日頃から想像力を高めるような指導をお願いしたい。
- 基本的な生活習慣に関して、家庭と連携して指導することで更に強い自覚に繋がっていくと思う。
- 挨拶をしたら必ず元気の挨拶を返してくれる。挨拶は評価も高いので、生徒たちも自信を持って、挨拶がもたらす地域への貢献を今後お願いしたい。

(6) 人権教育

- 人権啓発に関して、「人権だより」を工夫して作成されており、心に響く良い内容になっている。生徒の人権意識の高まりは、よき指導のたまものである。
- いじめに関しては、見つけること自体が大変難しいナイーブな問題なので、生徒が相談しやすいと感じる体制づくりに努めていただきたい。

(7) 進路指導

- 生徒の多様なニーズに応じた八工の進路指導の実績が、すばらしい結果に繋がっている。
- 生徒から見た先生との進路相談の数値が少し低いように感じる。大変だとは思いますが生徒とのコミュニケーションを積極的に取れるよう工夫してほしい。

(8) 学校保健

- 学校保健に関しては、毎月「保健だより」を発行し、タイムリーな情報を分かりやすく周知できている。生徒からみた先生の評価が高いことで安心している。
- マスクなしの生活が、生徒の学校生活へどのような影響を及ぼすか未知数だが、引き続き適切な対応と心のケアをお願いしたい。

(9) 学校安全

- 防災訓練等をしっかりと実施しており、訓練を繰り返すことで行動が身に付き、意識も向上しているようである。命を守るための大変重要で良い取組なので、今後とも実践的な訓練の継続をお願いしたい。

(10) 学校行政

- 学校開放日に何うと、すっきりとした環境、丁寧な接遇で気持ちが良い。
- 校内はいつも整備、清掃されている。

2 重点努力目標について

- ものづくりを核としての人づくりは適切に行われていると感じる。
- コロナ明けの来年度は、生徒の心のケアに努めながら、ますます活気あふれる学校づくりを推進してほしい。

3 説明・公表について

- 文字だけではなく、グラフや表を使った分かりやすい形で公表されるのが良いのではないかと。
- 今の方法か、A4一枚程度が適当だと思われる。

4 学校運営全般について

- コロナとの付き合いも長くなったが、今までになかった取組をプラスと考え、評価や改善策を参考に運営されることを願っている。
- 3年後には統合があるが、工業高校の教育は日本を支える重要なものなので、その良さをどんどん発信していただきたい。

(5) 生徒指導

- ネット絡みの問題は多岐にわたっており、他の機関とも連携を取って迅速に対応できるようにしたい。

- 生徒指導を進めるにあたっては家庭との連携は必要不可欠であり、より一層家庭と連携を取りながら今後も指導していきたい。

- 校外外において、自信をもって挨拶ができるように登校指導等を通して継続して指導していきたい。

(6) 人権教育

- 「人権だより」は、委員会活動をもっと取り入れて、生徒により興味・関心を持って読んでもらえる内容のものを作成する。

- 教職員側から気になる生徒への声かけを今年度以上に行い、生徒との信頼関係を構築し、生徒から相談しやすい体制づくりに努め、問題の早期発見・早期解決を図る。

(7) 進路指導

- 地元志向の強まりや工業関係以外の進路希望の増加等、生徒のニーズは確かに変化しつつある。今後も一人一人の希望や適性に合わせた進路実現を目指していきたい。

- 授業やホームルーム活動、進路指導関連行事等、あらゆる機会を通して生徒との対話を図っていきたい。

(8) 学校保健

- 日頃から保健室での対応だけではなく、校内巡視を多くし、生徒の様子や学校全体の課題を見つけ、課題解決に向けてタイムリーな情報発信を心掛けていきたい。

- 保健室では、相談しやすい環境をつくり、メンタル面のケアにも力を入れていきたい。

(9) 学校安全

- 慢心することなく、真剣に取り組んでいきたい。消防署等と連携を取り、さらに実践的な訓練をしたい。

(10) 学校行政

- これまでに引き続き、整備委員会や園芸部員と連携しながら、環境美化に努める。また、接遇についても、相手の立場に立ってより一層丁寧な対応心掛けたい。

2 重点努力目標について

- 「ものづくりから人づくり」を基本に、これかも努力目標実現に努めていきたい。

- 多様な生徒一人ひとりの個性を尊重し、工業高校の矜持を示していけるような学校づくりを進めていく。

3 説明・公表について

- アンケート結果を簡潔にまとめて掲載しているが、今後は視覚的な部分も考慮し、更に分かりやすい公表の仕方を心掛けたい。

4 学校運営全般について

- コロナ禍で活動も制限されていたが、全般に良い評価をいただいている。生徒、保護者、地域にとって魅力的な学校であるよう、また、工業高校の強みを前面に出して更なる高みを目指せるよう、これからも努力していきたい。

